

令和5年9月

大庭桂子 学位論文審査要旨

主査 鈴木 康 江
副主査 山 崎 歩
同 中 條 雅 美

主論文

Perspectives of nursing students on end-of-life nurse education: A qualitative study of the guided death experience

(終末期看護教育における看護学生の経験：死の疑似体験に関する質的研究)

(著者：大庭桂子、谷村千華、野口佳美、中條雅美、吉岡伸一)

令和5年 Nurse Education Today 126巻 105834

参考論文

1. わが国の救命領域における看護師のジレンマに関する文献検討

(著者：藤原華織、工藤里紗、川手あかり、野口佳美、大庭桂子)

令和3年 米子医学雑誌 72巻 45頁～53頁

審査結果の要旨

本研究は、看護基礎教育におけるEOLケア教育の教育方法としてGuided Death Experience (GDE) を試み、GDEにおける看護学生の経験を内容分析により明らかにし、EOLケアに関する看護基礎教育にGDEを導入する意義を検討したものである。その結果、GDEにおいて看護学生は、死に逝く過程における否定的感情や自分らしさの喪失といった“死に逝く人の世界に身を置く主観的体験”と、死に逝く人の看護ニーズへの気づきやEOLケアへの意欲といった“EOLケアに関する看護観の構築”を経験していることなどの新たな知見が得られた。本論文の内容は、看護学生がGDEにより死に逝く人の多様かつ複雑な心理を擬似体験し、EOLケアの看護観の構築に繋がる看護教育における有用性についての根拠を詳細に示し、看護教育学の分野における学術水準を高めたものと認める。